

河川の流域における動植物等調査

(1) 基本的な考え方

専門業者などへの委託により水生生物等を定点観測する。

具体的には、平成 19～23 年度の 5 か年の間に、第 1 回目の現地調査を実施して現状の把握と解析を行い、以後 5 年に 1 回程度の間隔で現地調査を行い、その経年変化を把握することを想定して取り組む。

また、過去に実施された調査のデータベース化をはかり、過去の状況からの変化についても把握・解析を行うこととする。

(2) 調査内容

調査対象	調査手法
水質調査 水温、水質汚染項目の分析	
水生生物（水質等の水環境評価に係る動植物） 底生動物、魚類、両生類、付着藻類、水生植物など	分布調査 （定量調査） （定性調査）
陸域の動植物等（水生生物の生息等に深く関わる、河川環境の評価に係る動植物） ・鳥類（カワガラス、ヤマセミ、カワセミ、セキレイ類、カワウなど） ・ほ乳類（イタチ、カワネズミなど） ・抽水植物（ヨシ、ガマなど）	分布調査 （定性調査）
生物の生息環境 ワンドや止水域等の、生物の生息にとって良好な環境の存在などを調査する。	分布調査

相模川水系・酒匂川水系それぞれ数十箇所に調査箇所を設ける。
各調査箇所において、季節を変えて年 3 回調査を実施する。

(3) スケジュール

取組内容		H19	H20	H21	H22	H23
相模川	・調査計画の策定					
	・過去の調査のデータベース化					
	・現地調査					
	・とりまとめ解析					
酒匂川	・調査計画の策定					
	・過去の調査のデータベース化					
	・現地調査					
	・とりまとめ解析					
全体	・補完調査					
	・全体とりまとめ解析					

